

5. フォローアップ計画

東京 2020 大会の開催に当たっては、本事業で整備する施設のほかに、計画地及びその周辺に大会関連用の仮設工作物の設置を行う予定であるが、現時点ではこれらの仮設工作物の諸元が未定である。また、東京 2020 大会の開催中における大会の運営等についても、現時点では具体的な計画が未定である。このため「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（馬事公苑（その2）」（平成 29 年 8 月 東京都）では、環境影響要因のうち、計画の具体性の高い環境影響要因を対象とすることとし、仮設工作物や大会の開催中に係る環境影響要因は対象としなかった。これらの仮設工作物や大会の開催中に係る環境影響評価は、今後の計画の熟度に応じて、改めて環境影響要因の抽出及び環境影響評価の項目を検討し、別途実施する予定である。なお、第 2 期工事については、東京 2020 大会を目的としたものではなく、日本中央競馬会が独自に実施する事業であるため、オリンピック・パラリンピック実施段階環境影響評価は、第 1 期工事で整備する事業を対象としているが、日影と景観については、第 1 期工事と第 2 期工事で影響を分けられないことから、第 2 期工事で整備する建築物も含め対象としている。

5.1 土壌

(1) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.1-1 に示すとおりである。

表 5.1-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度
予測条件の状況	・ 施設の用途
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療所については、床面に浸透防止材料を用い、薬品の地下浸透を防止するほか、馬診療所の薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。 ・ 装蹄所については、有害物質は取り扱わない。 ・ 厩舎地区出入口の消毒薬設置個所等の床面は、コンクリート等の不浸透性材料を用いる。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.1-2 に示すとおりである。

表 5.1-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項	土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度	
調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。	
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.2 日影

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 ・冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 ・日照障害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画建築物の状況(位置、形状、高さ等)
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画建築物の最高高さを約18m程度に抑える計画としている。 ・けやき並木の日影が及ぶ範囲にある樹木については、日影の状況をフォローアップ調査で確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項	日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	日照障害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物
調査時点	2期工事の施設完成後とする。		
調査期間	予測した事項	2期工事の施設完成後とする。	
	予測条件の状況	2期工事の施設完成後とする。	
	ミティゲーションの実施状況	2期工事の施設完成後とする。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	
	予測条件の状況	計画地とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	

5.3 景観

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。 ・ 外周部樹林帯は、高木の間引き等に伴い外周部の緑が途切れてしまう箇所には高木を適宜補植し、外周部からアイレベルで視線を遮り、周辺に配慮した樹林地を形成する。 ・ 苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。 ・ 正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を出来る限り保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存する計画としている。 ・ 計画建築物の最高高さを約18m程度に抑える計画としている。 ・ 計画建築物の色彩は、東京都景観計画及び風景づくり計画に準じた色彩計画としている。

2) 調査地域

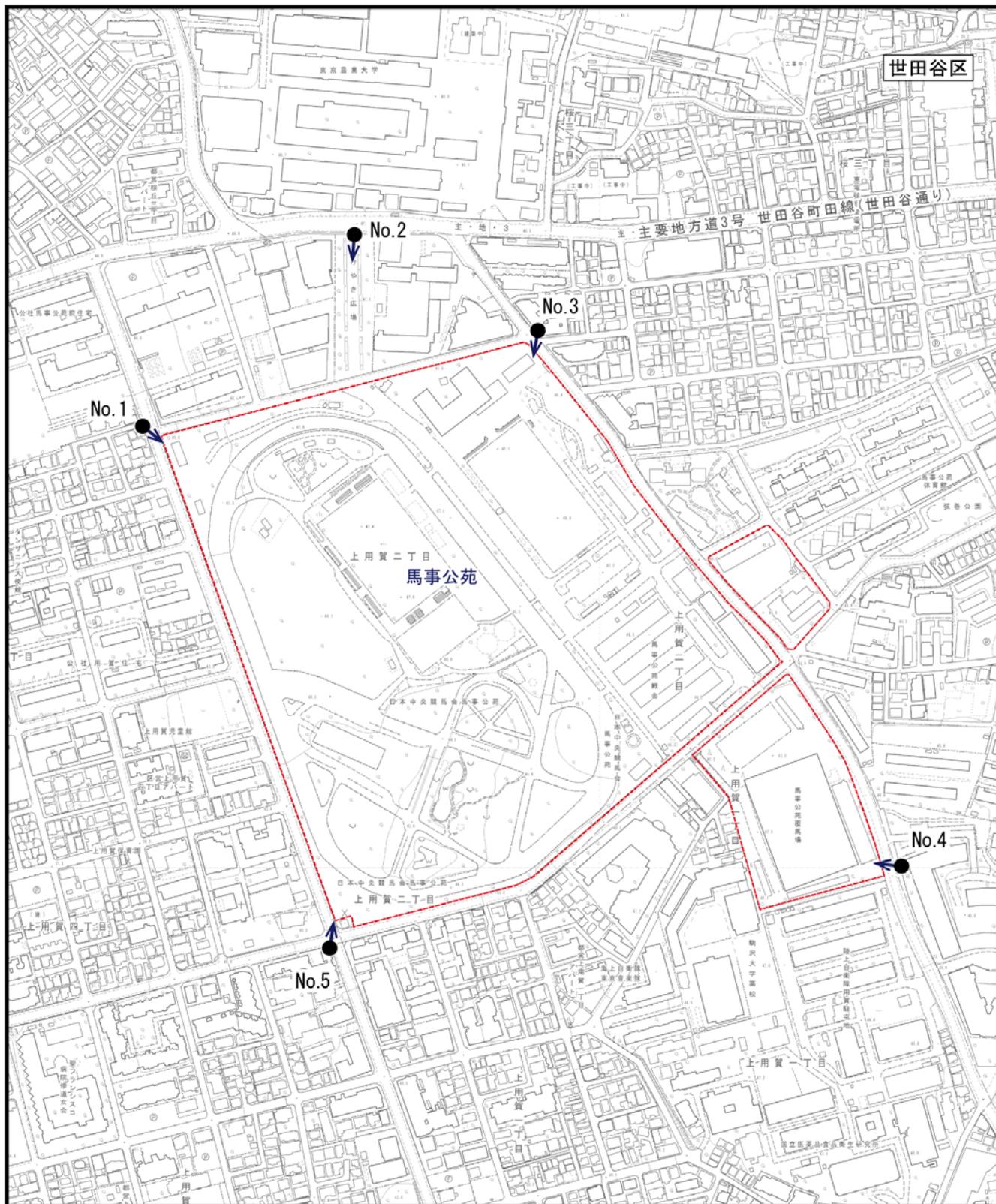
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.3-2 に示すとおりである。

表 5.3-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		主要な景観の構成要素の 改変の程度及びその改変 による地域景観の特性の 変化の程度	代表的な眺望地点からの 眺望の変化の程度	緑視率の変化の程度
調査時点		2期工事の施設完成後とする。		
調査期間	予測した事項	2期工事の施設完成後とする。		
	予測条件の状況	2期工事の施設完成後とする。		
	ミティゲーション の実施状況	工事中及び2期工事の施設完成後とする。		
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の5地点(図5.3-1に示す地点No.1~5)とする。	
	予測条件の状況	計画地とする。		
	ミティゲーション の実施状況	計画地とする。		
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。		
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。		
	ミティゲーション の実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。		



凡例

計画地

● 景観(眺望景観)調査地点
(No.1~5)

➤ 写真撮影方向



Scale 1:5,000



図 5.3-1

景観調査地点
(代表的な眺望点及び眺望の状況)

5.4 歩行者空間の快適性

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.4-1 に示すとおりである。

表 5.4-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の程度 ・歩行者が感じる快適性の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・気象の状況 ・周辺土地利用条件
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・都として、アクセス経路沿いの既存街路樹について可能な限りの保全を図る。 ・都として、都道の快適性を向上するため、大会会場周辺の既存街路樹について、樹形を大きく仕立てる剪定を計画的に実施していく。 ・都として、その他の都道の街路樹や公園の樹木を適切に維持・管理することにより、夏の強い日差しを遮る木陰を確保するとともに、まとまった緑による気温上昇の抑制効果を高めていく。 ・計画地内は、緑地広場の整備等、歩行者空間の暑さ対策について可能な限りの配慮を行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.4-2 に示すとおりである。

表 5.4-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		緑の程度	歩行者が感じる快適性の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。	
調査期間	予測した事項	大会開催後の夏季とする。	
	予測条件の状況	大会開催後の夏季とする。	
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図5.4-1参照)。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における5地点(図5.4-1に示すNo.1~5)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における5地点(図5.4-1に示すNo.1~5)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における5地点(図5.4-1に示すNo.1~5)とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	既存資料及び現地調査により、暑さ指数(WBGT)の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	

5.5 水利用

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.5-1 に示すとおりである。

表 5.5-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・水の効率的利用への取組・貢献の程度
予測条件の状況	・節水設備の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保水性の良い馬場構造を採用することにより、馬場への散水量を従前の馬事公苑より30%低減する計画となっている。馬事公苑内の馬場散水必要量は47t/日と想定しているが、従前と同様に井水と上水を併用する計画であり、取水制限の範囲内で、必要量の4割強に当たる20tを井水利用する予定としている。 ・メインオフィスや管理センター等に、節水型便器、擬音装置を設置する。 ・必要に応じて利用者に対する節水を周知する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.5-2 に示すとおりである。

表 5.5-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

	調査事項	水の効率的利用への取組・貢献の程度
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.6 廃棄物

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.6-1 に示すとおりである。

表 5.6-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 施設の利用者数
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世田谷区の分別方法に従い、古紙、ガラスびん、缶等は、資源として分別回収を行う計画とする。 ・ 施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系廃棄物の分別回収等、廃棄物の循環利用を進める計画としている。 ・ 産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。 ・ その他の産業廃棄物については、専門業者による適正処理を行う。 ・ イベントの開催時において発生する廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、各事業者が“事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理”する必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.6-2 に示すとおりである。

表 5.6-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

	調査事項	設備等の持続的稼働に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.7 温室効果ガス

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.7-1 に示すとおりである。

表 5.7-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
予測条件の状況	・省エネルギー設備の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全館の照明、非常照明（電源内蔵型）・誘導灯にLED器具を採用し、電光掲示板・表示装置のLED化を行う。 ・空調設備機器や換気設備機器については、高効率機器を導入する。 ・全熱交換器を採用し、空調負荷の低減を行う。 ・空調設備機器については、個別分散方式を採用し、個別パッケージ型の空調方式を採用する他、各部屋の方位や使用時間帯を加味しながら系統分けをすることで室外機の運転時間の縮小化を図る等の工夫を行う。 ・照明設備にセンサ制御（事務室の明るさセンサ制御、廊下・トイレの人感センサ制御、外灯のタイマー制御）を導入する。 ・換気設備についてセンサ連動運転を行い、運転時間の縮小を図る。 ・インドアアリーナ、厩舎にはトップライトを設置し、自然採光、自然換気を利用する。 ・屋外便所はハイサイドライトの設置等を行い、自然採光の有効利用を行う。 ・「東京都建築物環境計画書制度」における「エネルギーの使用の合理化」の方針として、建築物の熱負荷（PAL*）の低減、設備システムの省エネルギー（ERR）への取組を行う。なお、メインオフィスにおけるPAL*の低減率は23%（評価段階3：最も優れた取組であること）、ERRは26%（評価段階2：段階1より高い水準の取組であること）、インドアアリーナにおけるPAL*の低減率は17%（評価段階2）、ERRは20%（評価段階2）、管理センターにおけるPAL*の低減率は28%（評価段階3）、ERR：47%（評価段階3）を計画している。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.7-2 に示すとおりである。

表 5.7-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

	調査事項	温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.8 エネルギー

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.8-1 に示すとおりである。

表 5.8-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・エネルギーの使用量及びその削減の程度
予測条件の状況	・省エネルギー設備の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全館の照明、非常照明（電源内蔵型）・誘導灯にLED器具を採用し、電光掲示板・表示装置のLED化を行う。 ・空調設備機器や換気設備機器については、高効率機器を導入する。 ・全熱交換器を採用し、空調負荷の低減を行う。 ・空調設備機器については、個別分散方式を採用し、個別パッケージ型の空調方式を採用する他、各部屋の方位や使用時間帯を加味しながら系統分けをすることで室外機の運転時間の縮小化を図る等の工夫を行う。 ・照明設備にセンサ制御（事務室の明るさセンサ制御、廊下・トイレの人感センサ制御、外灯のタイマー制御）を導入する。 ・換気設備についてセンサ連動運転を行い、運転時間の縮小を図る。 ・インドアアリーナ、厩舎にはトップライトを設置し、自然採光、自然換気を利用する。 ・屋外便所はハイサイドライトの設置等を行い、自然採光の有効利用を行う。 ・「東京都建築物環境計画書制度」における「エネルギーの使用の合理化」の方針として、建築物の熱負荷（PAL*）の低減、設備システムの省エネルギー（ERR）への取組を行う。なお、メインオフィスにおけるPAL*の低減率は23%（評価段階3：最も優れた取組であること）、ERRは26%（評価段階2：段階1より高い水準の取組であること）、インドアアリーナにおけるPAL*の低減率は17%（評価段階2）、ERRは20%（評価段階2）、管理センターにおけるPAL*の低減率は28%（評価段階3）、ERR：47%（評価段階3）を計画している。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.8-2 に示すとおりである。

表 5.8-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項	エネルギーの使用量及びその削減の程度	
調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。	
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.9 安全

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.9-1 に示すとおりである。

表 5.9-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物施設等からの安全性の確保の程度 ・移動の安全のためのバリアフリー化の程度 ・電力供給の安定度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地周辺の危険物施設等の状況 ・施設内及び最寄りの鉄道駅から会場までの歩行者経路におけるバリアフリー施設の状況 ・電力供給施設の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例及び東京都福祉のまちづくり条例に準拠した施設計画としている。 ・「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」における規定等を踏まえた整備等を行う。 ・都としては「2020年に向けた実行プラン」において、2020年までに「競技会場周辺等の都道のバリアフリー化」が完了する計画である。 ・北エリア、南エリアのそれぞれにおいて、6.6kVの1回線受電とする。 ・メインオフィス、管理センター、事務・JRA職員寮のそれぞれに、非常用発電機を設置する。

2) 調査地域

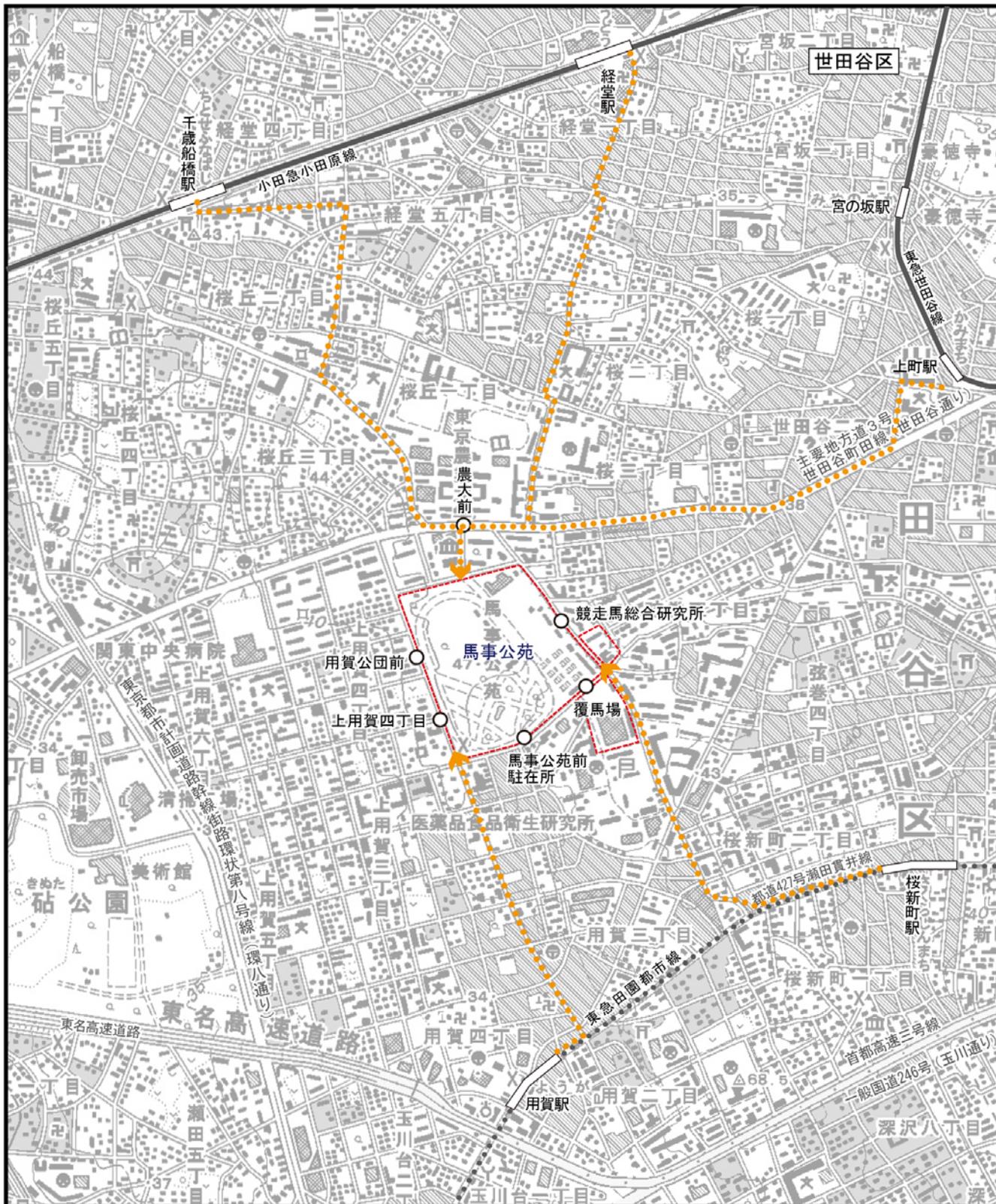
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.9-2 に示すとおりである。

表 5.9-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		危険物施設等からの安全性の確保の程度	移動の安全のためのバリアフリー化の程度	電力供給の安定度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。		
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。		
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。		
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。		
調査地点	予測した事項	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.9-1参照)。	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.9-1参照)。	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.9-1参照)。	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。



凡例

- 計画地
- 私鉄
- 私鉄（地下鉄）
- 歩行者動線（移動の安全のためのバリアフリー化の程度に係る調査範囲）
- バス停



Scale 1:15,000

0 150 300 600m

図 5.9-1 安全の調査範囲

5.10 消防・防災

(1) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.10-1 に示すとおりである。

表 5.10-1 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性の程度 ・防火性の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震設備の状況 ・防災設備の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法、東京都建築安全条例、消防法及び東京都火災予防条例に準拠する耐震基準・防火基準を満たした計画としている。 ・緊急時には、自動火災報知設備と音声による自動放送との連携により、スムーズな避難誘導を行う計画としている。 ・苑内の正門から近く利便性の高い位置に、はらっぱ広場・子ども広場として拵がりのある大きな草地の広場を設けることで、避難場所の機能としても一層の活用が可能となる計画としている。 ・上用賀一丁目地区地区計画の区域に含まれる計画地南エリアは、本整備計画においてインドアアリーナが北エリアに移設されることに伴い、避難有効面積が拡大し避難場所としての機能が向上する予定である。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.10-2 に示すとおりである。

表 5.10-2 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

	調査事項	耐震性の程度 防火性の程度
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.11 フォローアップ報告書の提出時期

フォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.11-1(1)及び(2)に示すとおりである。大会開催後に第2期工事を予定しているが、現時点（平成 29 年 8 月）において工事工程は未定である。

なお、参考として、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会フォローアップ計画書（馬事公苑）」（平成 28 年 12 月）におけるフォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.11-2(1)及び(2)に示すとおりであり、大会開催後のフォローアップ報告時期は平成 33 年度末であったが、馬事公苑（その2）フォローアップ計画書と合わせて、第2期工事完了後の平成 34 年度末に変更している。

表 5.11-1(1) 馬事公苑（その2）フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期（東京 2020 大会の開催前）

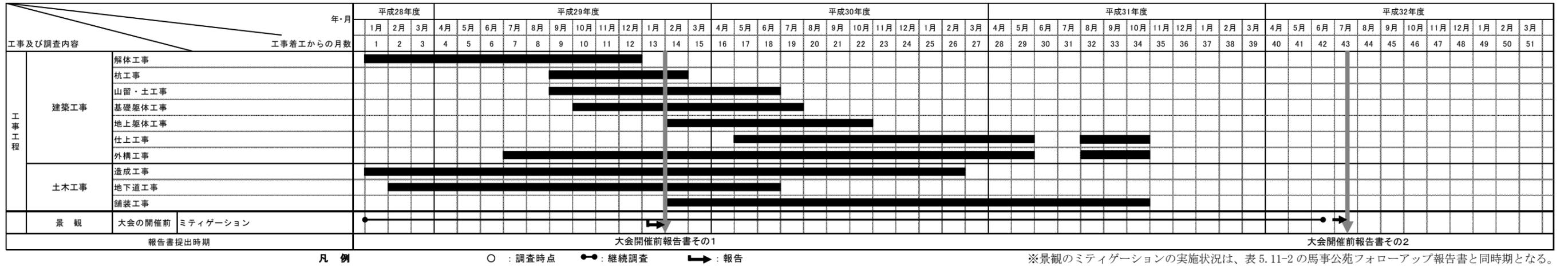


表 5.11-1(2) 馬事公苑（その2）フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期（東京 2020 大会の開催後）

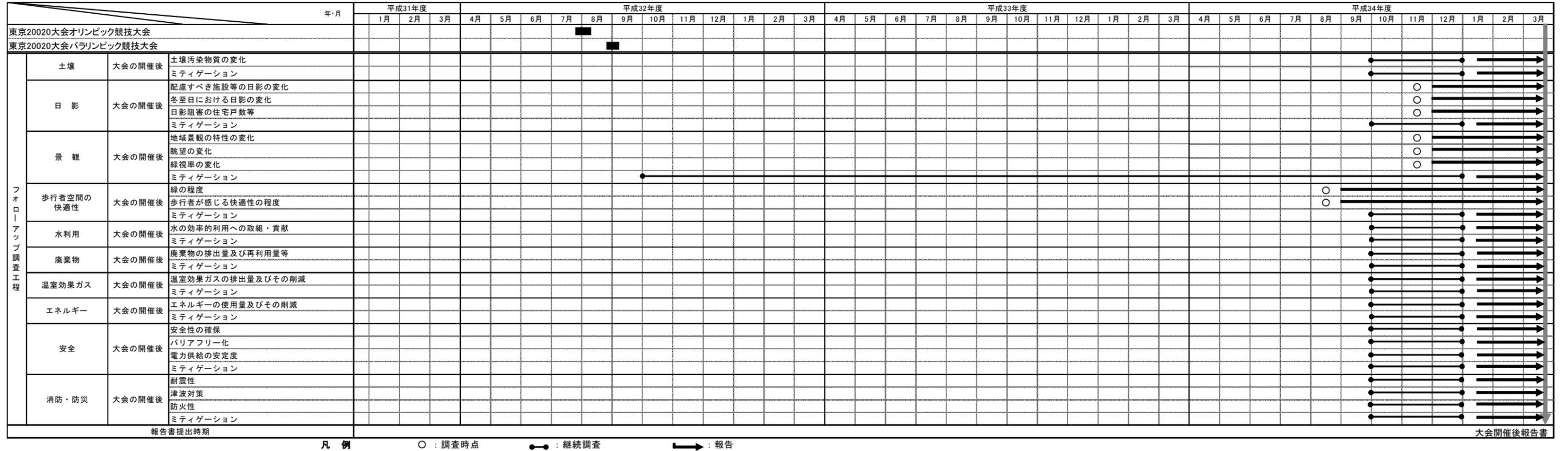


表 5.11-2(1) (参考) 馬事公苑フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催前)

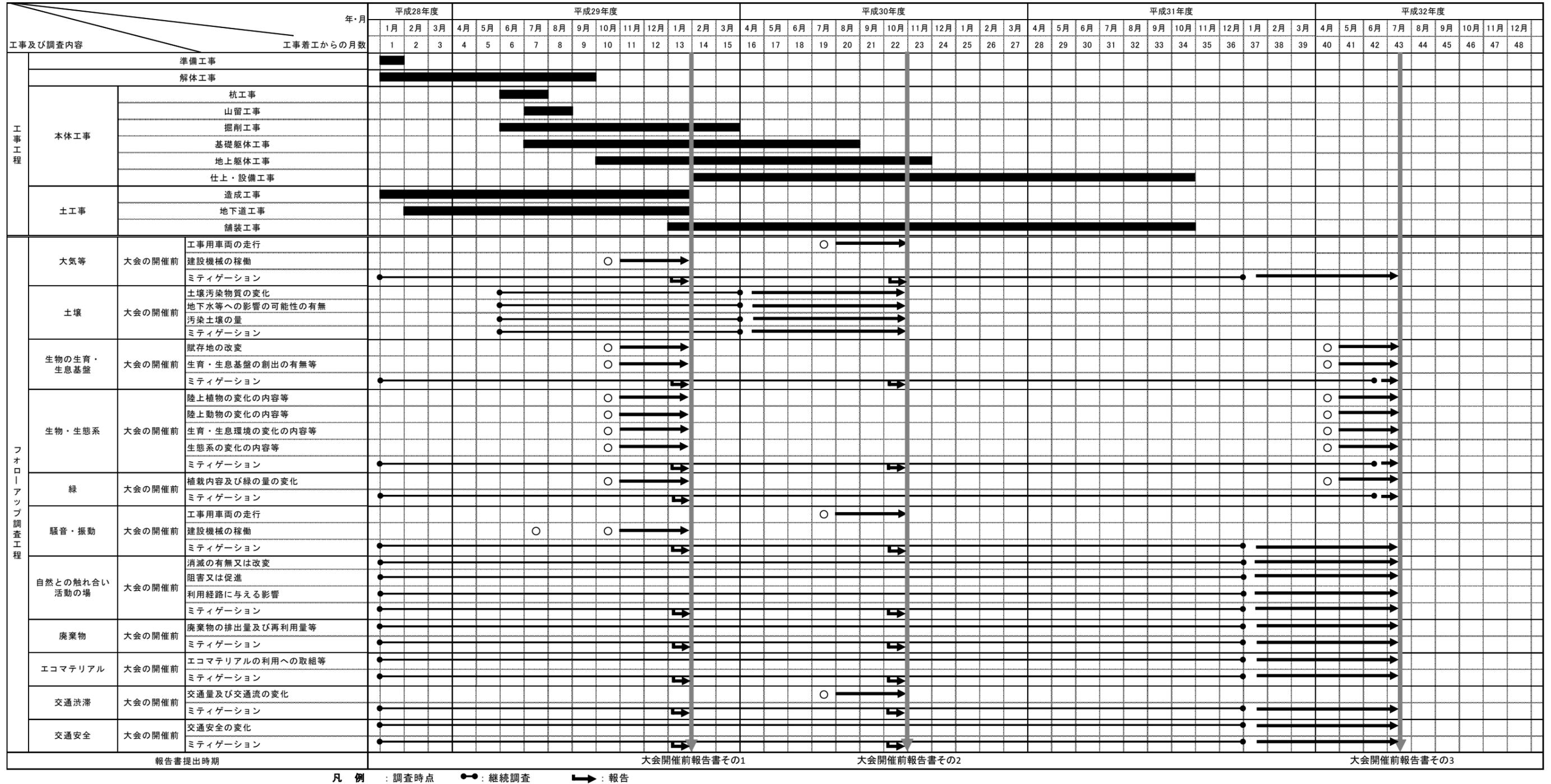


表 5.11-2(2) (参考) 馬事公苑フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催後)

年・月	平成31年度			平成32年度												平成33年度			平成34年度									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京2020大会オリンピック競技大会																												
東京2020大会パラリンピック競技大会																												
大気等	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
土壌	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
生物の生育・生息基盤	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
生物・生態系	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
緑	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
騒音・振動	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
日影	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
景観	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
自然との触れ合い活動の場	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
歩行者空間の快適性	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
水利用	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
廃棄物	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
温室効果ガス	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
エネルギー	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
安全	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
消防・防災	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
交通渋滞	大会の開催後																											
公共交通のアクセシビリティ	大会の開催中																											
交通安全	大会の開催中																											
	大会の開催後																											

フォローアップ調査工程

報告書提出時期

大会開催後報告書

凡例 ○ : 調査時点 ● : 継続調査 → : 報告

